第 17 講 「脱亜入欧」の達成と帝国主義
PART1 初期議会と条約改正

Chapter 1 初期議会

目標
政治家と官僚の違いについて知ろう。
初期議会で内閣と国会が対立していることを現代の視点から考えよう。

1 帝国議会の開設

①**帝国議会**の開設

［1　　　　　　］（選挙あり）と［2　　　　　　］（選挙なし）の**二院制**で**両院は対等**。

法律案・予算案に対する天皇の協賛機関。

A 衆議院議員選挙法（1889 年，小選挙区制の制限選挙）

選挙権は**満 25 歳以上の男子で直接国税 15 円以上を納める者**。全人口約 4000 万人の **1.1%**。被選挙権は満 30 歳以上の男子で直接国税 15 円以上を納める者。

B ［3　　　　　　］演説（1889 年 2 月 12 日，**黒田清隆首相**）

政府は政党に左右されず，独自の政策を立案・推進するという政治姿勢。

C **第一回総選挙（1890 年，第一次山県有朋内閣）**

総議席 300 をめぐる争いは，旧民権派が過半数を獲得し勝利。

あ **民党** （旧民権派政党＝ 171 議席）

立憲自由党（130 議席）・**立憲改進党**（41 議席）

い **吏党** （政府支持政党＝ 79 議席），その他（50 議席）

大成会（79 議席）

黒田清隆

2 初期議会

① ［4　　　　　　］**（1890 ～ 94 年）**

A **第一議会**（1890 ～ 91 年，**第一次**［5　　　　　　］**内閣**，争点＝予算問題）

政府は「**主権線**（国境）・**利益線**（朝鮮）」防衛のため軍備拡張を主張。

総選挙で大勝した民党は「**政費節減・民力休養**」を唱え，予算の削減を要求。

しかし，立憲自由党土佐派の裏切りにより双方が妥協し，政府の軍備拡張予算が成立。

※憤激した土佐藩出身の中江兆民は，議会は“無血虫の陳列場”と批判し議員を辞職。
　立憲自由党は**板垣退助**を党首に復帰させ［6　　　　　］と改称，統制を強化。

B　第二議会（1891 年，**第一次松方正義内閣**，争点＝予算問題）
民党は軍備拡張予算案を否決し，軍艦建造費・製鋼所設立費を削減。
樺山資紀海相（薩摩藩出身）による藩閥政府擁護の**蛮勇演説**で議会は解散。

C　第二回総選挙（1892 年，第一次松方正義内閣）
品川弥二郎内相が大規模な**選挙干渉**を行い，民党候補を弾圧。
多数の死者・重傷者を出した流血の大選挙干渉にもかかわらず民党が勝利。
品川内相は引責辞任，
西郷従道らとともに大成会にかわる吏党として**国民協会**を結成。

D　第三議会（1892 年，第一次松方正義内閣，争点＝予算問題）
総選挙に勝利した民党は，選挙干渉を非難するとともに，政府の予算案を再度否決。
閣内対立・動揺が激しくなった松方内閣は，議会終了後総辞職に追い込まれる。

E　第四議会（1892 ～ 93 年，**第二次伊藤博文内閣〔元勲内閣〕**，争点＝予算問題）
政府はこの年も軍備拡張予算案を提出。民党は予算案をまたも否決し，
軍艦建造費などを削減。さらに内閣弾劾上奏案を可決し政府を追い込む。
※1893 年，政府は明治天皇の**建艦詔勅〔和衷協同の詔書〕**により辛うじて
　軍備拡張予算を成立させ，自由党と政府との提携が強まり民党連合は崩壊。

F　第五議会（1893 年，第二次伊藤博文内閣，争点＝条約改正問題）
［7　　　　　］率いる立憲改進党が吏党の国民協会を巻き込み
対外硬派連合〔硬六派〕を結成して過半数の議席を占める。
※対外硬派連合は，現行条約励行の強硬外交を主張（外国人の内地雑居に反対）。
　政府の**陸奥宗光外相**が展開する条約改正交渉を軟弱と非難。第三回総選挙へ。

G　第六議会（1894 年，第二次伊藤博文内閣，争点＝条約改正問題）
対外硬派連合が，内閣弾劾上奏案を可決。
政府は再び議会を解散し第四回総選挙となるが，まもなく**日清戦争**に突入。

まとめ
政治家は選挙で当選し，官僚は自力で就任したという違いが原則である。
現代は議院内閣制なので，内閣と議会が対立することはまれである。

Chapter 2　条約改正の経過

目標
明治政府が不平等条約改正を国家的事業とした背景は何だろう？
条約改正成功の決定打は何だろう？

1　条約改正の目的と経過

①改正の目的→明治時代に入り日本人の海外渡航が許可されると不平等をより痛感した

A　**最恵国待遇の相互平等化**　（和親条約）

B　**治外法権〔領事裁判制度〕の撤廃**（修好通商条約）

C　**関税自主権の回復**　（修好通商条約）

②〔1　　　　〕（1871 ～ 73 年，右大臣）

岩倉使節団による**改正の予備交渉は失敗**，欧米視察は一定の成果をあげる。

③〔2　　　　〕（1873 ～ 79 年，外務卿）→イギリスなどの反対で失敗

財政危機（インフレ・輸入超過）を乗り切るため，**国別交渉による税権の回復**をめざす。

④〔3　　　　〕（1879 ～ 87 年，外務卿のち外務大臣）

一括交渉による法権回復と税権の一部回復（関税の引き上げ）をめざす。

1882 年　予備会議を開始

※翌年，東京にイギリス人コンドル設計の〔4　　　　〕を建設。

連日の舞踏会・音楽会を中心とした極端な**欧化政策**を推進（= **鹿鳴館外交**）。

1886 年　正式会議を開始するが〔5　　　　〕**事件**が発生

※イギリス船沈没事件で日本人乗客全員を見殺しにした

イギリス人船長の過失が軽く扱われ，国民は法権回復の必要性を痛感。

1887 年　**改正の代償として外国人判事の任用・外国人の内地雑居・欧米同様の法典編纂を秘密裡に容認していた**ことに対し，政府内外から批判が集中。

※民権派は**三大事件建白運動**を展開。井上は辞任し改正会議は無期延期となる。

⑤〔6　　　　〕（1888 ～ 89 年，外務大臣）

国別秘密交渉による法権の回復と税権の一部回復をめざす。

外国人判事任用を大審院に限ること以外は井上案をほぼ踏襲し，

メキシコ・アメリカ・ドイツ・ロシアの同意を得る。

※しかし，秘密の交渉条件がイギリスの『ロンドン = タイムズ』紙に暴露され，

日本の世論が沸騰。民権派・国権派が連合して反対。

※1889年，憤激した玄洋社（頭山満を中心とした九州の国家主義団体）の来島恒喜が大隈を爆弾で襲撃。黒田清隆内閣は総辞職し，重傷を負った大隈も外相を辞任。

⑥〔7　　　　　　　　〕（1889 ~ 91年，外務大臣）

国別秘密交渉による法権回復と税権の一部回復をめざす。

外国人判事は任用せず，外国人の内地雑居はほぼ認める。

※ロシアの南下を警戒したイギリスは同意を示すが，〔8　　　　　　　　〕（1891年，訪日中のロシア皇太子ニコライを警備中の巡査津田三蔵が暴行）により，青木は外相を辞任。

※日露関係の悪化を恐れた第一次松方正義内閣は死刑判決を求めたが，**大審院長児島惟謙**はこれに反対。

無期徒刑の判決を下し**司法権の独立**を護った。

陸奥宗光

2　条約改正の達成

①〔9　　　　　　　　〕（1892 ~ 96年，外務大臣）

法権の回復と税権の一部回復を目指し青木案を踏襲。

駐英公使となった青木周蔵の活躍でイギリスの同意を得る。

※日清戦争直前，**日英通商航海条約**（**1894年**，第二次伊藤博文内閣）を締結し，**法権回復に成功**。**最恵国待遇の相互平等化も達成**し，ほかの列国とも新条約を締結。

有効期間12年，5年後の1899年より発効（青木周蔵外相）。

②〔10　　　　　　　　〕（1908 ~ 11年，外務大臣）

税権の完全回復をめざすが，日露戦争の勝利により日本の国際的地位が急上昇。

列国の反対が少なくなった状態で，新条約満期を迎える。

※アメリカと**改正日米通商航海条約**（**1911年**，第二次桂太郎内閣）を締結。

ほかの列国とも新条約を締結し，**条約改正を達成**。

日本は欧米列強と完全に対等の地位を得る。

③改正成功の要因→改正事業は国民的な要望に支えられていた

近代産業の発達による国力の充実と欧米同様の法典編纂，

日清・日露戦争の勝利による国際的地位の向上。

まとめ
“脱亜入欧”を果たすには，不平等条約の改正は必須であった。
日本の国際的地位が向上したことが，条約改正成功の決定打となった。

第 17 講 PART 1　確認問題

1 1889 年，黒田清隆首相が行った演説の政治姿勢はどれか。

① 国粋主義　② 絶対主義
③ 超然主義　④ 帝国主義

2 第一回総選挙で最も多くの議席を獲得した政党はどれか。

① 立憲改進党　② 立憲自由党
③ 国民自由党　④ 大成会

3 第二回総選挙で大規模な選挙干渉を行った内務大臣はだれか。

① 西郷従道　② 副島種臣
③ 品川弥二郎　④ 樺山資紀

4 天皇の建艦詔勅により，軍備拡張予算を成立させた内閣はどれか。

① 第一次松方正義内閣　② 第一次山形有朋内閣
③ 第一次伊藤博文内閣　④ 第二次伊藤博文内閣

5 寺島宗則外務卿が進めた条約改正で，税権回復交渉に成功した国はどこか。

① アメリカ　② イギリス
③ フランス　④ ドイツ

6 条約改正交渉において，鹿鳴館を建てて極端な欧化政策を推進したのはだれか。

① 青木周蔵　② 大隈重信
③ 井上馨　④ 小村寿太郎

7 大津事件で辞職した外務大臣はだれか。

① 小村寿太郎　② 大隈重信
③ 陸奥宗光　④ 青木周蔵

8 大津事件で，司法権の独立を護った大審院長はだれか。

① 穂積八束　② 津田三蔵
③ 児島惟謙　④ 梅謙次郎

第 17 講　PART 1　確認問題 解答

1 解答：③　**超然主義**は，政府は政党に左右されず，独自の政策を立案・推進するという政治姿勢をいう。

2 解答：②　300 議席のうち，**立憲自由党**は 130 議席を獲得した。

3 解答：③　大選挙干渉にもかかわらず民党が勝利したため，**品川弥二郎内相**は引責辞任した。④の**樺山資紀**は海軍大臣で，藩閥政府擁護の**蛮勇演説**を行い第二議会を解散させた。

4 解答：④　軍備拡張予算を成立させた**第二次伊藤博文内閣〔元勲内閣〕**は，自由党との提携が強まったため，これまで政府の政策に徹底的に反対していた民党連合は崩壊した。

5 解答：①　アメリカとは税権回復交渉に成功したが，イギリス・ドイツの反対により失敗に終わった。

6 解答：③　**井上馨**外務卿のち外務大臣が条約改正を行っていた時期の外交を**鹿鳴館外交**という。

7 解答：④　**大津事件**は，訪日中のロシア皇太子ニコライを警備中の巡査津田三蔵が暴行した事件。

8 解答：③　大津事件により，日露関係の悪化を恐れた第一次松方正義内閣は死刑判決を求めたが，**大審院長**の**児島惟謙**はこれに反対した。